



中学生にヘルメットを貸与

着用で安全の確保を

秩父市では、セーフコミュニティの国際認証取得を目指して取り組んでいます。

「事故やケガは予防することができる」という考え方に基づいて、データを分析することで事故等を少しでも減らしていきたいと考えています。リスクの高い人や環境を調べた上で、具体的な対応策を検討していきます。この中で、「子どもの安全対策」も重要なテーマの一つと位置づけています。

取り組みの一環として、平成25年度から、市内中学校の自転車通学者全員に、ヘルメットを



ヘルメットを着用して通学する中学生（大田中学校）

貸与しました。平成23年の救急搬送データをみると、15歳以下の子どもの自転車乗車時の搬送件数は、市内で10件もありました。ヘルメットを着用することで、転倒時に脳に与える衝撃を10分の1以下に緩和できるという実験結果が出ており、大きな効果が期待できます。

通学時はもちろん、日常生活でも自転車乗車時は必ずヘルメットを着用する習慣を定着させることにより、子どもたちの安全性が大幅に高まるはずです。

このような活動も含めて、市教育委員会では、子どもたちの安全を確保するため、セーフコミュニティの学校版である「インターナショナルセーフスクール」の認証取得に向けて取り組みを始めました。

まずは、秩父第二中学校、花の木小学校、南小学校の3校をセーフスクール推進校として委嘱し、質の高い安全な学校づくりを実現するため、セーフスクールの国際認証取得を目指して取り組んでいく予定です。

問 教育研究所 22 | 2 4 4 6
危機管理課 22 | 2 2 0 6